

## 第8回由良川減災対策協議会 議事概要

日時：令和3年5月24日（月） 14:00～15:45

場所：WEB開催

### 【出席者（順不同）】

福知山市 前川副市長（大橋市長代理）  
舞鶴市 堤副市長（多々見市長代理）  
綾部市 市長公室 岩本危機管理監（山崎市長代理）  
宮津市 建設部 森口建設部長（城崎市長代理）  
京都府 建設交通部 富山部長  
気象庁 京都地方气象台 内藤台長  
近畿地方整備局 福知山河川国道事務所 矢野所長  
西日本旅客鉄道株式会社 福知山支社 柴垣副支社長（漆原支社長代理）  
WILLER TRAINS 株式会社 畑山安全監査室長（寒竹社長代理）  
＜オブザーバー＞  
関西電力株式会社 水力事業本部 京都水力センター 坂本土木係長（掛谷所長代理）

### 【マスコミ（順不同）】

朝日新聞社、京都新聞社、毎日新聞社、両丹日日新聞社、FMいかる、建設タイムズ、あやべ市民新聞

### 【議事1】：鉄道事業者の参画による規約の改正について

- ・西日本旅客鉄道株式会社、WILLER TRAINS 株式会社の追加に伴う規約変更が承認され、令和3年5月24日より施行。

### 【議事2】各機関の取組方針の実施状況の確認

- ・質疑応答なし

### 【議事3】令和3年度以降の新たな取組方針に向けた取組項目の継続、追加及び変更について

### 【議事4】令和3年度以降の新たな取組方針（案）

〈京都地方气象台〉

- ・6月3日より「記録的短時間大雨情報の改善」と「警戒レベルに対応した高潮警報に改善」を実施する。※延期のため6月8日に変更
- ・6月17日より線状降水帯のキーワードを用いた「顕著な大雨に関する情報」を新たに運用開始する。

〈京都府〉

- ・流域治水協議会と減災対策協議会の効率化を考え、一体化してもいいのでは。

〈事務局〉

- ・減災対策協議会は水防法に基づき、防災・減災に取り組んでいる。流域治水協議会は被害の軽減、早期復旧・復興のためのソフト対策について、流域内のあらゆる機関が連携し取り組んでい

る。全体的な情報共有は流域治水協議会で、より具体的な方策や進捗状況等は、減災対策協議会で確認するということである。今後、皆さんの負担にならないような開催方法を考えていきたい。

〈京都府〉

- ・京都府は、由良川と淀川双方があり、こういった会議がたくさんあるため、実態を踏まえた効率的な運営に協力いただきたい。

〈事務局〉

- ・取組方針（変更箇所）で、継続しない「ハザードマップの作成・周知等」は、転入住民もいるため「周知」は残してはどうか。

〈福知山河川国道事務所〉

- ・今後も続けていく必要があるので関係機関調整したい。

〈京都府〉

- ・水位計の整備は一定程度完了したが、今後追加で設置する場合、取組無しという理由で交付金等の支援がなくなるということはないか。

〈事務局〉

- ・取組と交付金等とは切り離して考えて頂きたい。

#### 【議事 5】 今後の予定

- ・質疑応答なし

#### ■各機関からの意見

〈福知山市〉

- ・独自の防災アプリを開発し、5月1日から運用を開始。気象情報と避難情報を受信できる。文字と音声で確認もできる。現在地周辺の情報提供や多言語にも対応し、登録を呼びかけている。
- ・令和元年度から検討してきた「避難のあり方検討会」は、今年3月に最終の取りまとめを行った。今後自治会毎にマイタイムライン等の作成を進めていく。
- ・内閣府のモデル事業として採択された「要配慮者の個別避難支援計画の作成」は、市民・行政が一体となり災害に強いまちづくりに取組んでいきたい。

〈舞鶴市〉

- ・避難所における新型コロナウイルスへの感染への警戒心から、住民の避難スイッチが入りにくくなるのではないかと懸念している。減災対策は、ハード・ソフト対策が一体化となり効果を発揮するが、近年の災害の激甚化を踏まえると、ソフト対策がより一層重要である。ハザードマップ、タイムラインはもちろんのこと、避難情報に対し反応し、いかに避難スイッチを入れるのが鍵になると感じている。
- ・AIによる街全体の効率的な見守りの実現を目指して、舞鶴市総合モニタリングシステムの開発を進めており、防災情報の発信としてより一層取組を進めていきたい。

〈綾部市〉

- ・コロナ禍で出前講座、タイムラインの作成、研修、市民や消防団の訓練等の取組が実施しづらい状況である。

- ・先日（5月14日）実施の由良川洪水対応演習でZOOM（リモート会議）を活用したホットラインでの情報共有は、関係機関と、顔の見える連携で心強く、効果的な取組であった。
- ・避難情報の見直しが行われ、避難情報の使い方を周知することが重要である。啓発チラシの全戸配布、HP等さまざまな手段を用いて周知を図り、避難行動タイムラインの作成に取り組む。
- ・ハード、ソフト対策の新たな取組方針の課題が多く、関係機関連携は大変意義深く、今後も国、府と連携し、被害軽減の取組を進める。

#### 〈宮津市〉

- ・整備手法も決まり切っていない段階であり、今後絞りこんで検討していきたい。
- ・将来にわたって安全に安心して住むことができるように、国、府、住民と連携し、ハード、ソフト対策を行っていくことが非常に重要だと考える。そのためこうした協議会で進捗状況や取組を共有しながらハード対策、ソフト対策に努めていきたい。

#### 〈京都府〉

- ・最近の被害状況を踏まえると、中小河川や内水氾濫へのより細かい対応が必要になってくる。条例に基づき全ての府の管理河川の浸水想定図の公表を行っており、来年度には完了したい。ハザードマップの整備や、要配慮者利用施設の避難計画について懸念しており、これらについて市町や府がサポートする形で進めている。
- ・最近の防災対応としては、水位や画像を配信しているが、今後もシステムを整備し継続するための負担も生じるため、計画的に対応していく必要があると考える。

#### 〈京都地方気象台〉

- ・防災気象情報の充実を図っており、避難等に活用いただきたい。
- ・毎年非常に大きな災害が起きるたびに防災気象情報の充実に取り組んできた。新しい情報が度々出るため、防災への活かし方が分かりにくいところがあれば、地域防災支援として、皆さまのサポートをしたいと考えている。
- ・災害が起こってしまった場合、防災気象情報がどのように使われたか、どこが問題かの聞き取りも行い、次に良い情報になるよう、聞き取り調査等にもご協力いただきたいと考える。

#### 〈西日本旅客鉄道株式会社〉

- ・令和元年の台風19号を受け、車両や運行に必要な重要設備に対して、ハード・ソフト面の両面に対する浸水対策を行った。
- ・対策を進めるうえで、リードタイムの長い防災情報をいただくことになり、関係機関の皆様と連携をとっていきたい。

#### 〈WILLER TRAINS 株式会社〉

- ・車両は地域住民の足を確保する大切な財産であるため、今回の会議の中でもどのようにして守るか頭を悩ませている。
- ・大きな災害後の早期復旧に向け、また地域住民の足を確保する意味でも、避難をいかに迅速に行うか、という至上命題にしっかりと勉強していきたい。鉄道が持続可能になるのか皆様の知恵をお借りしながら進めていきたい。

〈関西電力株式会社〉

- ・関西電力においては、今年度から和知ダムで治水協力として、事前放流を行う予定になっている。しかし和知ダムは治水容量を持たないダムで、あまり大きな効果は得られないが、その点については、ご理解いただきたい。

【その他】 流域治水プロジェクトおよび流域治水関連法案について

- ・質疑応答なし

以上